

# 2018 年度 琉球弧研究支援

研究テーマ「離島における『地域と子育て』の現状」

氏名：仲眞みき

所属学部学科：人文学部こども文化学科

## I. 初めに

私はもともと離島での生活に興味があり、その中でも「そこで暮らす人々が、何を考え、どのような選択をし、生活を続けているのか」に関心がある。昨年度、その動機を持ち琉球弧研究に取り組んだ。今年度も学びを深めるため実際に現地へ赴き、そこで暮らす人々に話を聞いてみたいと思った。

## II. 研究の目的、動機

昨年度、同研究テーマで奄美大島大和村名音地区を調査した。その際に今後の展望として、県内にある他の離島でも調査をし、地域ごとの特色や違いがあるか比較していきたいという思いがあった。そのため今年度も同じテーマで研究に取り組み、今回の調査地として昨年度に候補地として挙がっていた西表島を選んだ。

## III. 研究方法、地域、期間

研究方法 西表島西部（主に字大富）で地元の方に聞き取り調査

地域 西表島西部

期間 2018年11月20～23日

### 竹富町字大富の人口動態 竹富町地区別人口動態票より

	世帯数	男	女	計
平成30	178	165	134	299
平成25	149	153	133	286
平成20	151	154	148	302

## IV. 結果

### ○移住者の多さとその現実

自然豊かな西表島にあこがれて移住を決意する人々が多い。一人で西表に移住し、西表で出会った人と家庭を持つ人。家族で移住する人。様々であるが、皆それぞれ西表に魅力を感じ、西表で暮らすことを選択して移住してくる。

移住者にとって3年、5年、10年、15年…と節目がある。イメージしていた生活とギャップがある、転勤がある、子どもが島外へ進学するため金銭面の負担を考えて、子育てのために西表で暮らしていたが子どもは巣立ってしまった（暮らす理由がない）、親の介護、家族の中に島の暮らしが合わない人がいる…など人の数だけ理由がある。そのため人口の変遷は少なくとも、人口を構成している「人」は入れ替わっている可能性が高い。それでも様々な節目を乗り越えて、「島の人」になる移住者も多くいる。

自分自身が西表好きか、子どものために西表に来たか、で節目の迎え方が違う。子育てを終えた方から聞いた話では、保育所で同級生は20名からスタートし、小学校で離任した先生の子どもの数が減り、中学校の卒業式になるとかなり同級生が減っている…という状況だったようだ。節目の中でそれぞれの事情があり、島を離れる家族もいる。

### ○共同売店

離島やへき地に残る共同売店。地域住民全員を株主としたシステムで誕生し、現在も地域の交流拠点となることが多い。字大富にある大富共同売店もそのうちのひとつであり、パートタイマーとして働く主婦の方々が活気ある売り場づくり、居場所づくりを行っている。

私たちが売店へ立ち寄ると、下校中の小学1年生たちが売店のトイレを借りていた。少し立ち話をしていると小雨が降ってきた為、子どもたちは雨宿りをしながら売店内の休憩所で宿題をしていた。時折、売店のパートさんが子どもたちの様子を確認していた。そのうちの一人の子の母親が、その子を探し回っていたらしい。売店から「売店で宿題をしているよ」と電話があったらしい。売店のパートさんでありながら、母親同士。子どもたちから見ると「〇〇のお母さん」なので安心感があるのだろう。小さな売店が包括的な役割をしている所を確認することができた。

#### ○医療問題

西表島には診療所はあるが、病院はない。一番近いのは石垣島の病院である。私が調査をしていた際も高齢の方が救急ヘリで運ばれているところを目撃した。

子育てをする中でも第一に心配なのは、医療の問題だそう。もし家族、特に子どもの身に何かあったとき、一刻を争うときに島内に病院がないというのは不安がある。救急ヘリで石垣島の病院へ行くが、往復するだけでかなりの費用があるため躊躇することもある。

出産時の問題もある。出産においては石垣島のマンスリーマンションを借りて、万全の状態にしておくのが母子ともに安心。竹富町から出産に関する補助金（通院費、石垣島滞在費など）も出るが、全額補助ではないため金銭面が苦しい・仕事を休まないといけない等の苦労もある。

#### ○地域が子ども・親を育てる

子育て中に苦しんだ時、子育ての先輩であるおばあから「大丈夫よ」と声をかけてもらったことで、気が楽になった方がいた。

また、「転がしておいたら勝手に育つ」と言われるほど、地域が子どもを宝とし、「地域のこども」として接してくれる。地域行事などで大人たちが忙しく動き回る中で、子守をやる子どもが必ずいるそう。それが子どもにとっても「地域の弟、妹」であり、母親修行にもなっている。地域に支えられ、子ども・親が育っていくのだと感じた。

#### ○コミュニティの変化

離島といえば「隣近所はみんな知り合い」というイメージであったが、現在は地域行事などにあまり参加せず、ひっそりと暮らす「だれかわからない」人も増えたそう。

共同売店、保育所、PTA会、婦人会、地域行事などいろいろなコミュニティがあるが、保育所に子どもを入れる以前の家族（母親と赤ちゃんなど）が孤立しやすいことに気づいた。西表島には公園など子どもが遊ぶ場がなく、保育園という居場所がなければ子育て仲間を見つけることに苦労する。その悩みに気づいた後、公民館などで「みんなでご飯を作ってゆんたくしよう」と先輩ママが声をかけることで少しずつ子育て仲間と交流できる、母と子が休まる、保育所以外のコミュニティが生まれているという。

#### V. 考察、分析

子育てをするには最高の環境である。「島は人間関係が大変」というイメージがあるが、西表は島民が「西表共和国」と自称するほど移住者が多く、よそから来た人に対し比較的寛容である。そして移住者の方々は「西表が好き」だから医療や金銭面に不安があっても西表島で暮らすことを選択する。また、「人生を楽しく好きなことをしたい、環境（西表）をさらによくしたい」という意欲があるため、他の離島・へき地と比べて、新たなアイデアやコミュニティが生まれやすいと感じた。

「不便なことが多くても、『西表で』暮らしたい」と思える、西表島の魅力と、よ

そ者に寛容でチャレンジ精神のある西表共和国の精神で、不便さを乗り越えた「豊かな暮らし」が生まれていると感じた。

#### VI. 今後の展望

琉球弧研究で取り組んだ調査を卒業論文でまとめている。大学生活で学んだこと、調査地の皆様に教えていただいたことの成果を論文という形にできるよう努力する。

#### VII. 終わりに

移住の歴史がある西表島は、多様性があり魅力的な場所だった。「まずは自分が楽しむこと」を大切にしている姿勢が印象的だった。一度の調査では足りないくらい行きたいコミュニティや会いたい方々が溢れており、更にたくさんの西表の顔を見たいと感じた調査であった。

#### VIII. 参考文献、調査協力

調査協力 竹盛旅館 竹盛さん  
山城まゆみさん  
石垣金星さん  
農家民宿マナ オーナー石原さん

#### 参考文献

<https://www.town.taketomi.lg.jp/administration/toukei/jinko/doutai/>

#### IX. 指導教員コメント

今回の調査とそのまとめをするにあたって、調査の難しさと楽しさを実感できたようで指導教員としても嬉しく思います。調査に同行していて、その積極さと問題意識の高さを感じました。

報告書としてもよくコンパクトにまとめたと思います。調査料が多いだけに、少ない字数でまとめることが大変だったと思います。今後も、「地域」に関心を持ち続けてほしいと思います。

(宮城能彦)